

第 154 回簿記 3 級模擬試験問題【問題】

【第 1 問】

下記の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

[語群]

現 金	普通預金	売 掛 金	貯 蔵 品	差入保証金
商 品	前 払 金	仮 払 金	未 収 利息	仮払消費税
貸倒引当金	買 掛 金	未 払 利息	仮受消費税	雑 益
現金過不足	売 上	商品売買益	受 取 利息	仕 入
支 払 家 賃	支払手数料	雑 損	租 税 公 課	通 信 費
貸 倒 損 失	旅費交通費	支払手数料	消 耗 品 費	支 払 利息

1. 当期の平成 30 年 9 月 20 日に、得意先愛媛商店が業績不振により倒産した。愛媛商店には、平成 30 年 4 月 1 日に商品¥70,000 を販売し代金は掛けにしている。なお、前期末決算において貸倒引当金は¥50,000 設定をしている。決算日は 12 月 31 日である。
2. 前期の決算において未収利息¥46,000 を計上していたので、本日（当期首）、再振替仕訳を行った。
3. 商品を仕入れ、品物とともに次の納品書を受け取り、代金は掛けとした。なお、消費税については税抜方式で記帳する。

納品書			
株式会社令和商事 御中			平成株式会社
下記の通り納品いたしましたので、ご確認ください。			
品物	数量	単価	金額
ティーカップ	30	1,500	¥ 45,000
マグカップ（白）	20	1,000	¥ 20,000
マグカップ（黒）	20	1,000	¥ 20,000
消費税			¥ 8,500
合計金額			¥ 93,500

4. 事務所として利用する目的で賃借契約を締結した。契約の際に敷金¥600,000、一ヶ月分の家賃¥180,000を普通預金口座から支払った。なお、不動産会社に対しての仲介手数料¥60,000は現金で支払った。
5. 月末に金庫を実査したところ、通貨(紙幣および硬貨) ¥120,000、他人振出しの小切手¥10,000、得意先振出しの約束手形 ¥ 20,000 が保管されていたが、現金出納帳の残高は ¥ 128,500 であった。不一致の原因を調べたが原因は判明しなかったため、現金過不足勘定で処理することにした。

【第 2 問】

弥生商店に(決算年 1 回、3 月 31 日)における次の取引にもとづいて、答案用紙の支払利息勘定と未払利息勘定を完成させなさい。語群から適切なものを選ぶこと。

[語群] 借入金 現金 普通預金 当座預金 支払利息 未払利息 損益 次期繰越 前期繰越

4 月 1 日 弥生銀行から¥500,000(年利 1.2%、期間 1 年、利払日は 9 月と 3 月の各末日)を現金で借り入れた。

- 9月28日 取引先から¥730,000(年利4.3%、期間1年)を借り入れ、同額が普通預金口座に振り込まれた。なお、利息は元本返済時に一括で支払う契約である。
- 9月30日 銀行からの借入金について、利息を当座預金口座から支払った。利息の計算は月割計算すること。
- 3月31日 銀行からの借入金について、利息を当座預金口座から支払った。
取引先からの借入金について、未払分の利息を計上した。
利息の計算は日割計算すること。なお、利息計算期間は、185日である。(1年は365日で計算)

【第3問】

次の(1)合計試算表と(2)諸取引にもとづいて、答案用紙の×2年8月31日の合計残高試算表と売掛金および買掛金の明細表(仕入先・得意先は抜粋したものである)を作成しなさい。

(1)×2年8月24日時点の合計試算表

合 計 試 算 表

×2年8月24日

(単位：円)

借	方	勘定科目	貸	方
	2,480,000	現金		1,751,000
	4,836,000	当座預金		3,150,000
	4,140,000	売掛金		3,050,000
	3,100,000	電子記録債権		1,700,000
	420,000	繰越商品		
	930,000	前払金		330,000
	40,000	立替金		
	1,800,000	建物		
	3,400,000	買掛金		4,400,000
	2,370,000	電子記録債務		2,800,000
	350,000	前受金		740,000
		所得税預り金		3,500
		社会保険預り金		25,000
		貸倒引当金		46,500
		減価償却累計額		67,000
		借入金		1,500,000
		資本金		3,050,000
		繰越利益剰余金		1,600,000
	150,000	売上		4,540,000
	3,800,000	仕入		100,000
	550,000	給料		
	360,000	支払家賃		
	60,000	旅費交通費		
	25,000	法定福利費		
	42,000	水道光熱費		
	28,853,000	合計		28,853,000

(2)×2年8月25日から31日までの諸取引 ※()内は、金額の内訳を示す。

- 25日 電子記録債権の回収：北海道商店 ¥700,000 当座預金口座に入金
仕入：東京商店 ¥500,000 (手付金と相殺¥200,000 掛け¥300,000)
売上：大阪商店 ¥800,000 (手付金と相殺 ¥100,000、掛け ¥700,000)
仮払金：営業担当の従業員のために、旅費交通費支払用の IC カードに現金¥30,000 を入金し、当店はこ
の IC カードを使用したときに費用に振り替える処理を採用している。
- 26日 仕入：沖縄商店 ¥800,000 (手付金と相殺¥300,000 掛け¥500,000)
電子記録債務による仕入：東京商店 ¥400,000
現金引出し：当座預金口座から¥100,000
所得税納付：所得税預り金 ¥3,500
- 27日 掛返品：26日仕入分より¥50,000
IC カード利用：¥8,000
掛代金回収：当座預金口座振込みによる受取り¥780,000(北海道商店 ¥500,000、大阪商店¥280,000)
掛代金支払い：当座預金口座より振込み ¥700,000(東京商店 ¥200,000、沖縄商店 ¥500,000)
備品購入：パソコンを¥200,000 で 2 台購入。代金支払い日は 60 日後とした。
- 28日 売上：北海道商店 ¥800,000 (手付金と相殺 ¥80,000、掛け ¥720,000)
同店負担の発送費用 ¥12,000 を運送会社に現金で立替払いし、掛代金とは区別して計上する。
社会保険料納付：社会保険料預り金¥25,000[従業員の負担額]と会社負担額[従業員の負担額と同額]を加
えて現金で納付
- 30日 電子記録債務の支払：東京商店 ¥400,000 当座預金から振込
- 31日 掛代金支払い：当座預金口座より振込み ¥700,000(東京商店 ¥300,000、沖縄商店 ¥400,000)
家賃支払い：当座預金口座から引落し¥150,000
水道光熱費支払い：当座預金口座から引落し¥40,000
給料支払い：支給総額 ¥300,000(所得税 源泉徴収額 ¥5,000 社会保険 控除¥25,000 差引額は現金払い)

【第4問】

当社は、毎日の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成している。

同店の×3年7月1日の伝票にもとづき、下記の問いに答えなさい。

(1)答案用紙の仕訳日計表を作成し、総勘定元帳の現金勘定へ転記しなさい。元丁欄、仕丁欄の転記も行いなさい。

(2)入金伝票No.102および振替伝票No.301が1つの取引を記録したものだとした場合、この取引で売上げた金額を求めなさい。

入金伝票 No101	
科目	金額
売上	50,000

入金伝票 No102	
科目	金額
売上	46,000

入金伝票 No103	
科目	金額
受取手数料	25,000

出金伝票 No201	
科目	金額
仕入	30,000

出金伝票 No202	
科目	金額
仕入	62,000

振替伝票 №301			
借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金(秋田商店)	240,000	売上	240,000

振替伝票 №302			
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	166,000	買掛金(石川商店)	166,000

【第5問】

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は平成30年1月1日から12月31日までの1年である。

(1) 決算整理前残高試算表

借方残高	勘定科目	貸方残高
820,000	現金	
570,000	普通預金	
	当座預金	200,000
380,000	受取手形	
420,000	売掛金	
298,000	繰越商品	
70,000	仮払法人税等	
1,000,000	建物	
1,500,000	土地	
	買掛金	280,000
	支払手形	170,000
	貸倒引当金	3,000
	建物減価償却累計額	300,000
	資本金	2,790,000
	繰越利益剰余金	1,200,000
	売上	956,000
	受取地代	102,700
668,000	仕入	
240,000	給料	
14,400	保険料	
9,600	広告宣伝費	
5,700	水道光熱費	
6,000	旅費交通費	
6,001,700		6,001,700

(2) 決算整理事項

- 12月中に従業員が立て替え払いした旅費交通費は¥5,000であったが未処理である。なお、当店では従業員が立て替え払いした旅費交通費を毎月末に未払金と計上したうえで、従業員には翌日に支払っている。
- 当期末において当座借越が生じている場合には、当座預金勘定の貸方残高の金額を借入金勘定に振替える。
- 当期生じた売掛金のうち¥20,000が回収不能であることが判明した。
- 売掛金の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高 ¥315,000
- 固定資産の減価償却を間接法で次のとおり行う。
建物 定額法
耐用年数：30年
残存価額：取得原価の10%
- 保険料は8月1日に向こう1年分を支払っている。保険期間の未経過分について必要な処理を行う。
- 受取地代の前受額が¥16,000ある。
- 法人税等を¥150,000計上し、仮払法人税等との差額は未払法人税等とする。